

学びの質を高める内言

学習指導要領は、子どもたちの学びの質を高めることで、これからの時代に必要な力を着実に身に付けさせ、生涯にわたって学び続けることができるようにすることを求めています。

表題にある「内言」とは、心の内で発する言葉、つぶやきのことです。私たち大人も、例えば、結婚式のスピーチ原稿を書く際に、次の三つの内言を発することが、スピーチの質を高めることを、経験上認識しています。



- ①「他に考え方はないか。」 ②「筋が通って、分かりやすいか。」 ③「本当にこれでよいか。」

これらの三つは、物事を批判的に考える力を構成する主要な要素です。「物事を批判的に考える」というと、物事を否定する方向で考察することと捉えがちですが、そうではありません。物事を多様な観点から吟味し見定めることを意味します。

①「他に考え方はないか」は、多面的・多角的な視点をもつこと、②「筋が通って、分かりやすいか」は、物事を筋道立てて考えること、すなわち論理的思考です。③「本当にこれでよいか」は、自分の考えや行動を客観的に捉えて確認し直すことで、メタ認知と呼ばれています。

授業では、教師が折あるごとに「他に考え方はないか」、「筋が通って分かりやすいか」、「本当にこれでよいか」と子どもに問いかけ、再考を促すことが大切です。そうした学習の積み重ねによって学びの質の高まりを自覚した子どもたちは、やがて教師の問いかけを待つことなく、内言に従って自らの学びの見直し・改善を行うようになります。

部下指導のコツ

三洋電機 元副社長 後藤清一

部下指導のコツは「五たい」をくみとることだ。

- ① 関心をもたれたい。 ② 理解されたい。 ③ 認められたい。
④ 信頼されたい。 ⑤ 可愛がられたい。

出典：今泉正顕編著「生きる財産」

※ この「五たい」、部下はもとより子供にもあてはまります。